

東京大空襲犠牲者追悼集会 「体験者の話」

2023年3月10日 13時開会

場所 隅田公園言問橋際 東京大空襲犠牲者追悼碑前

わしやまようこ
鷺山洋子

とうきょうだいくうしゅう (1945年3月10日) とうじ さいじよし
東京大空襲 (1945年3月10日) 当時12歳女子

こくみがっこう ねんせい
国民学校6年生

あさくさ すみだこうえん せいぞん
浅草・隅田公園で生存 2023年3月 がつげんざい さい
現在90歳

しょうかい わしやまようこ もう
ご紹介いただきました、鷺山洋子と申します。

とうきょうだいくうしゅう どうじ さい あさくさかみなりもんちか いえ くうしゅう
私は、東京大空襲の当時12歳で、浅草雷門近くの家で空襲を
う すみだこうえん い のこ
受け隅田公園で生き残ることができました。

せんそう はじ しょうわ ねん ねん
戦争が始まったのは、昭和16年、1941年。

こくみんがっこう ねんせい
国民学校2年生のときでした。

だいたうあせんそう よろこ ちょうちんぎょうれつ かざ ろめんでんしゃ
大東亜戦争がはじまったと喜ぶ、提灯行列や、飾られた路面電車を
おぼ
覚えています。

6年生になった1944年、サイパン島が陥落して、戦況が悪くなり、
じどう くうしゅう ひがい まも
児童を空襲の被害から守るために、縁故疎開、集団疎開が始まりました。

いばらきけん てら ねんせい ねんせい にん しゅうだんそかい
私は、茨城県のお寺に、6年生と4年生の40人で集団疎開をしました。

おやもと せいかつ
親元をはなれての生活は、つらく、ひもじく、シラミになやまされまし
た。

ふゆ ひ はは わたし めんかい おさな おとうと つ ゆき
その冬のある日、母が私に面会するために、幼い弟を連れて、雪の
ふ さんもん ある すがた
降る山門をくぐり、歩いてくる姿がうれしかったことをおぼえていま
す。母がもってきてくれたのは、だいず くろ い ちゃ かん
大豆、黒ごまを煎ったものをお茶の缶
い
に入れたものでした。

わたしたち ねんせい とうきょうだいくうしゅう いちしゅうかんまえ ねん がつ にち
私達6年生は、東京大空襲の一週間前の、1945年3月3日に、
ちゅうがっこう じょがっこう すす とうきょう かえ
中学校・女学校に進むために、東京に帰りました。

ちち ぐんたい しょうしゅう ないちきんむ いえ
父は、軍隊に招集され、内地勤務をしていたので、家にいませんでした。
た。

がつ にち よなか わたし はは お お
3月10日の夜中に、私は、母に「起きなさい！起きなさい！」と、
お
たたき起こされました。

まくらもと ぼうくうずきん せきじゅうじ かた
枕元にあった防空頭巾をかぶり、赤十字マークのついたバッグを肩
そと で み あ おお ひこうき やね の
にかけ、外に出て、空を見上げると、大きな飛行機が、屋根に乗りから
と
んばかりに飛んでいます。

うえのほうめん あさくさ かのんさまほうめん そら あか そ
上野方面も、浅草の観音様方面も、空が赤く染まっていました。

それでは、すみだこうえん い
それでは、隅田公園に行こうと、乾物屋の我が家でしたので、リヤカ
たまご はい きばこ さとう たる ふとん はは さい あに
一に、卵の入った木箱、砂糖の樽、布団などをのせて、母と14歳の兄、
さい わたし さい さい おとうと にん かみなりもんどお
12歳の私、6歳、4歳の弟の5人は、リヤカーにつかまり、雷門通
で
りに出ました。

しかし、かさい きょうふう お お すす
しかし、火災による強風で、リヤカーを押せども、押せども進みませ
ん。

どうやら松屋前を通り、隅田公園に入ると、すぐに防空壕がありましたが、男の人が顔を出し、「だめだ、だめだ！いっばいだ！」と言って、防空壕の蓋を閉めてしまいました。

後に聞いたことですが、防空壕の中の人たちは、蒸し焼きになって死んだそうです。ただ、私は見たわけではないので、事實はわかりません。

私達がいたのは、今は東京都観光汽船「浅草」の発着所があるあたりでした。

吾妻橋は、落ちそうなぐらい人であふれていました。

「デパート松屋」からは、窓という窓から火がふき出ていました。

空を見上げると、何か大きな物体が、火災の風に巻き上げられて、ガラランとおと音を立てて飛んでいます。

私達がいた川べりは、火の粉がまじった熱い風に包まれました。

母は、身につけた紐をほどいて、バケツに結わえつけ、ドボンと川に落ちて水を含み上げ、うずくまっていた私達の防空頭巾の上から水をかけました。

どれほど時間がたったのやら。

飛行機の爆音も、聞こえなくなりました。

や のはら いえ もど ちかしつ ちかしつ
焼け野原の家に戻ると、コンクリートの地下室だけがあり、その地下室
みずどうかん すいてき なみだ お
の水道管の蛇口から、水滴がぽたりぽたりと、涙のように落ちていたの
わす
が忘れられません。

わたしたち やけ のこ あさくさしょうがっこう むか
私達は、焼け残ったという、浅草小学校に向かいました。

とちゅう でんしんはしら や こ しょうしたい よこ
途中、電信柱が焼け焦げたような焼死体がいくつも横たわっています。
はは ぼうくうずきん りょうはし わたし み
母は私の防空頭巾の両端をおさえて、私が見ないようにしてく
れました。

あさくさしょうがっこう いちしゅうかん ひなんせいかつ
浅草小学校で一週間ほど避難生活をしていましたようです。

しかし、もうふ ね お
しかし、毛布で寝起きし、いただいた、おにぎりがおいしかったことの
ほか せいかつ おも だ
他、どのような生活をしていたのかは、思い出せませんでした。

せんしゅう あさくさしょうがっこう こうちようせんせい あ どうじ しりょう
そこで、先週、浅草小学校の校長先生にお会いして、当時の資料
み
を見せていただくことができました。

がっこう きろく あさくさしょうがっこう がっこうしょくいん ひなん ひと
学校の記録によれば、浅草小学校は、学校職員と避難していた人
しょうかかつどう ふんどう こうしゃ まも ぬ
が消火活動に奮闘して校舎を守り抜きました。

くうしゅう さ あさ じ いちまんにんいじょう ひなんみん
空襲が去った3月10日の朝8時、1万人以上の避難民がいて、そ
ご ほか がっこう しせつ ぶんさん と お か しゅうようちゅう ひなんみん
の後、他の学校や施設に分散させたので、10日に「収容中の避難民」
にせんよんひやくにん
は2千4百人と記録にありました。

なか わたしたち
その中に私達もいたはずです。

おいしかったおにぎりは、^{たけはしれんたい}竹橋連隊からトラック二台で^{だい まん せんこ}2万5千個も
^{はこ}運ばれたものだともわかりました。

^{えんこそかい}縁故疎開が呼びかけられ、^{きんこう}縁故がない人は近郊他県への^{すす}疎開が進めら
れ、一週間後の避難民は数十名になってたと、学校の記録にありました。

その中で、^{わたしたち みせ きゃく}私達は店のお客さんだった浦和の^{うらわ ちじんたく}知人宅にお^{せ わ}世話になる
ことになり、^{あさくさ はな}浅草を離れました。

^{とうきょうだいこうしゅう}東京大空襲を生き残れた^{のこ わたし}私は、^{ことし}今年、^{さい}90歳となりました。

^{いま}今、^{おな}ウクライナでは、同じように^{みんかんじん}民間人への^{こうげき おこな}攻撃が行われています。

^{おお}多くの^こ子どもたちが、^{かぞく いえ うしな}家族や家を失い、^{こころ ふか きず お}心に深い傷を負っています。

^{いちや}一夜にして、^{おお}多くの^{いのち うしな}命が失われた、^{とうきょうだいこうしゅう お}東京大空襲で起きたことと、
^{わたしたち たいけん}私達が体験したことを^{つた}伝えておかなければならないと思ひ、^{おも はなし}お話をさ
せていただきました。

このような^{ざんこく せんそう お}残酷な戦争が起きない、^{へいわ せかい}平和な世界になることを^{ねが}願ってお
ります。

^{れいわ}令和5年 ^{がつ}3月 ^か10日 ^{わしやまようこ}鷺山洋子